

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について



国東市教育委員会
学校教育課

令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果の概要

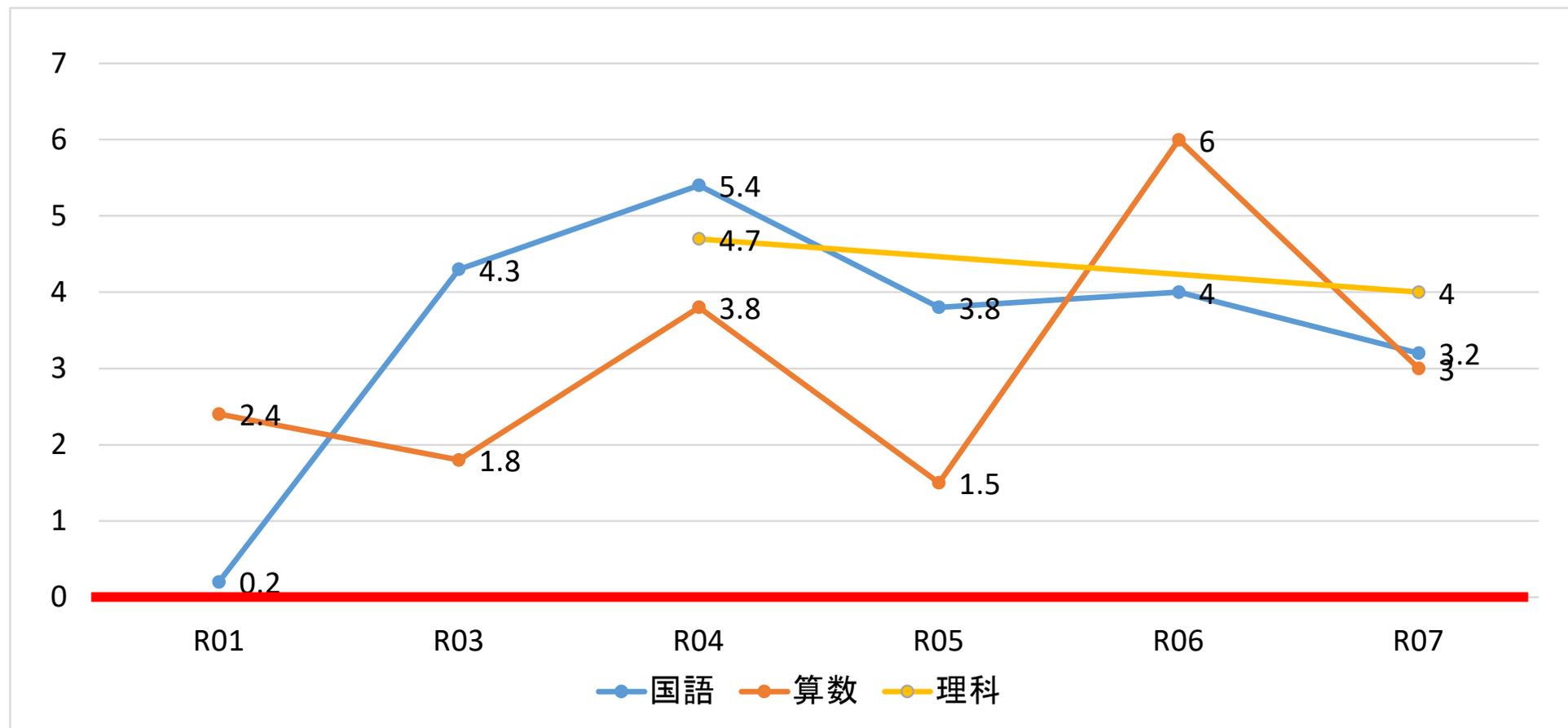
正答率(%)

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
全国	66.8	58	57.1	54.3	48.3	50.3
大分県	69	60	60	53	45	50.1
国東市	70	61	64	55	49	52.0
全国との差	+3.2	+3	+6.9	+0.7	+0.7	+1.7
大分県との差	+1	+1	+4	+2	+4	+1.9

 は全国平均を上回った教科

※(中)理科はIRTスコア 2

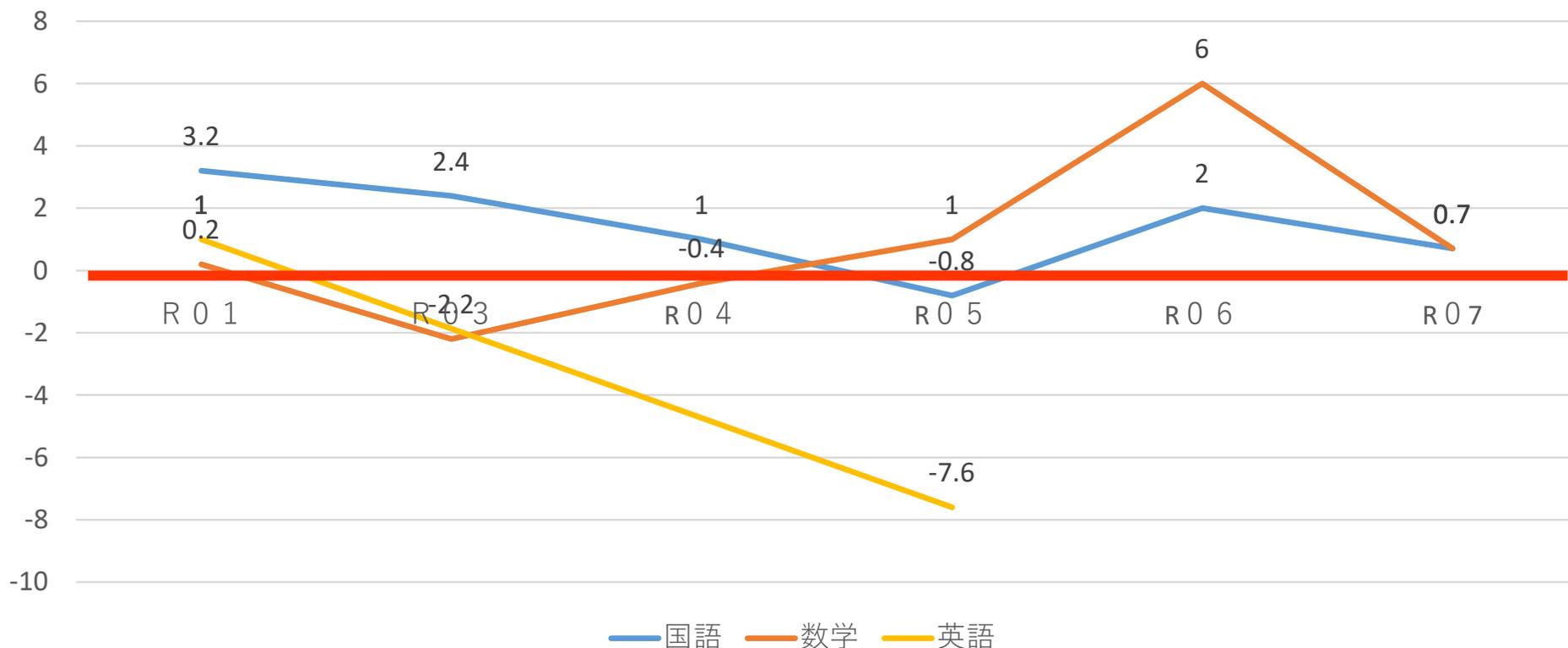
(小学校)国東市と全国との正答率の差の推移



(ポイント)

	R01	R03	R04	R05	R06	R07
国語	0.2	4.3	5.4	3.8	4	3.2
算数	2.4	1.8	3.8	1.5	6	3
理科			4.7			4

(中学校)国東市と全国との正答率の差の推移



(ポイント)

	R01	R03	R04	R05	R06	R07
国語	3.2	2.4	1	-0.8	2	0.7
数学	0.2	-2.2	-0.4	1	6	0.7
理科			-1.3			(17)
英語	1			-7.6		

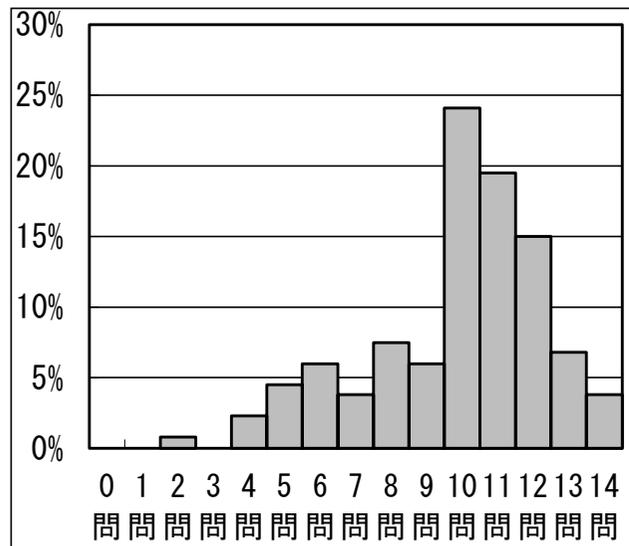
※理科はIRTスコアとなったためグラフには表示していない

(小学校)正答率が3割以下の児童の割合

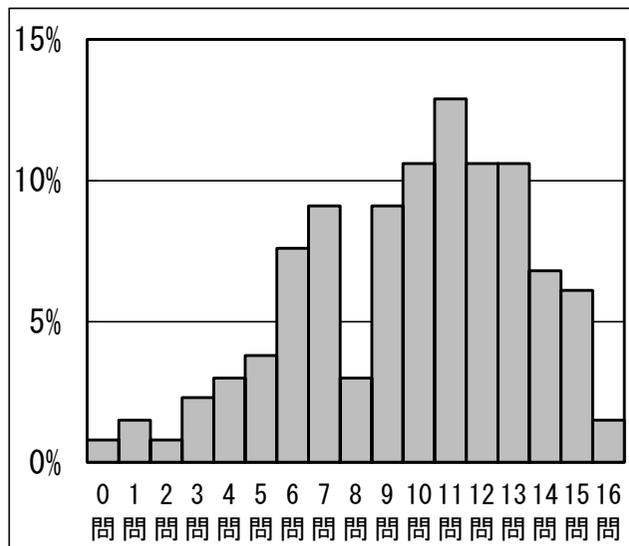
小学校	国東市	大分県	全国	(%)
国語	3.1(4)	5.6(6)	7.7(8)	
算数	12.2(9)	17.7(15)	20.1(15)	
理科	9.8	12.5	16.4	

※ () 内はR6年度の値

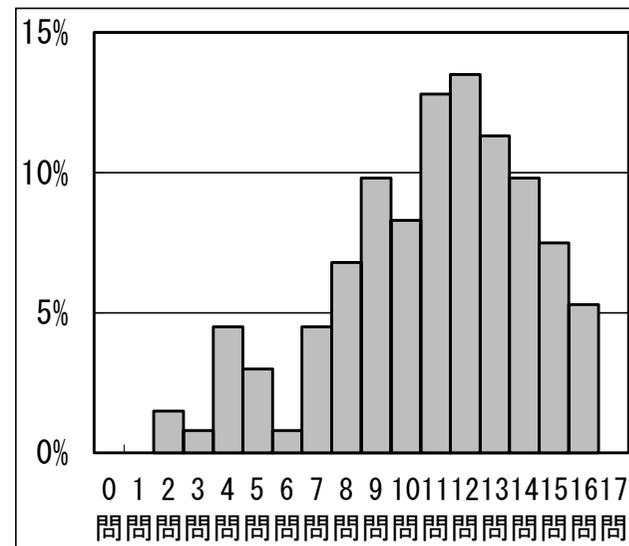
国語



算数



理科

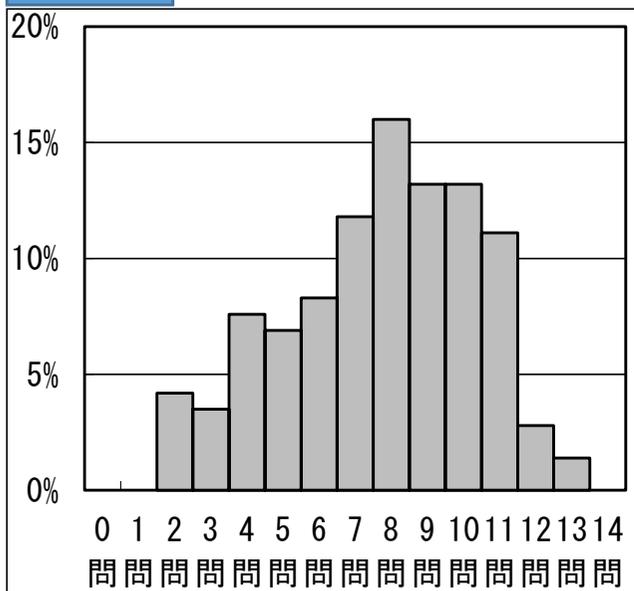


(中学校)正答率が3割以下の生徒の割合

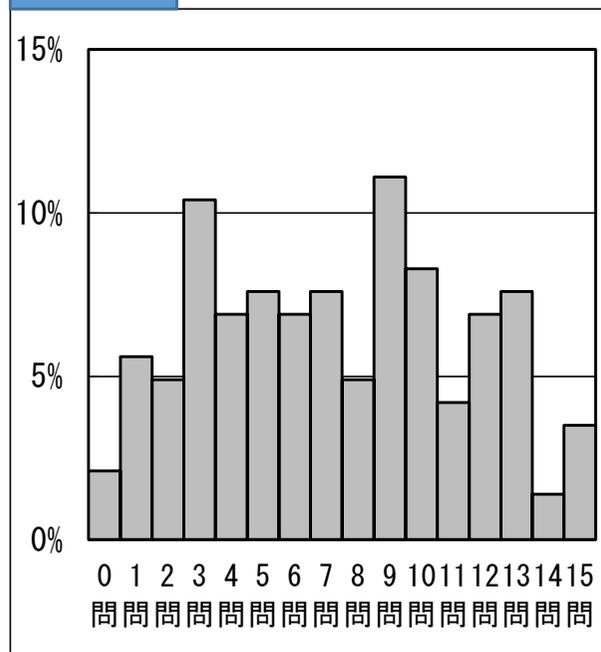
中学校	国東市	大分県	全国	(%)
国語	15.3(15)	15.7(19)	14(19)	
数学	37.5(23)	44.5(30)	39.6(28)	
理科	23.2	33.2	31.5	

※理科はIRTバンド1・2の割合の合計 ()内はR6年度の値

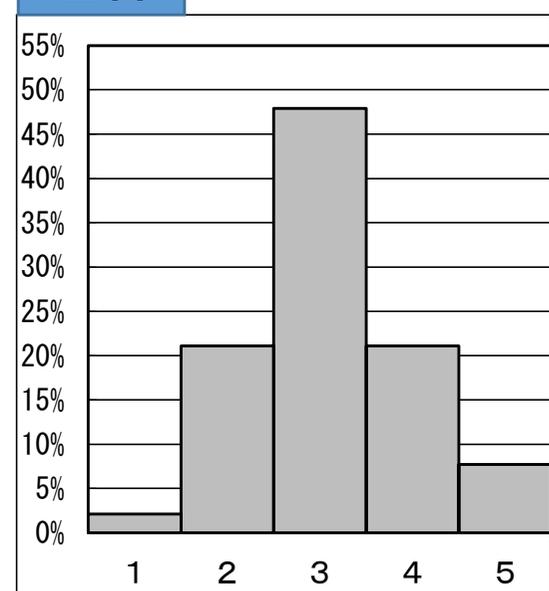
国語



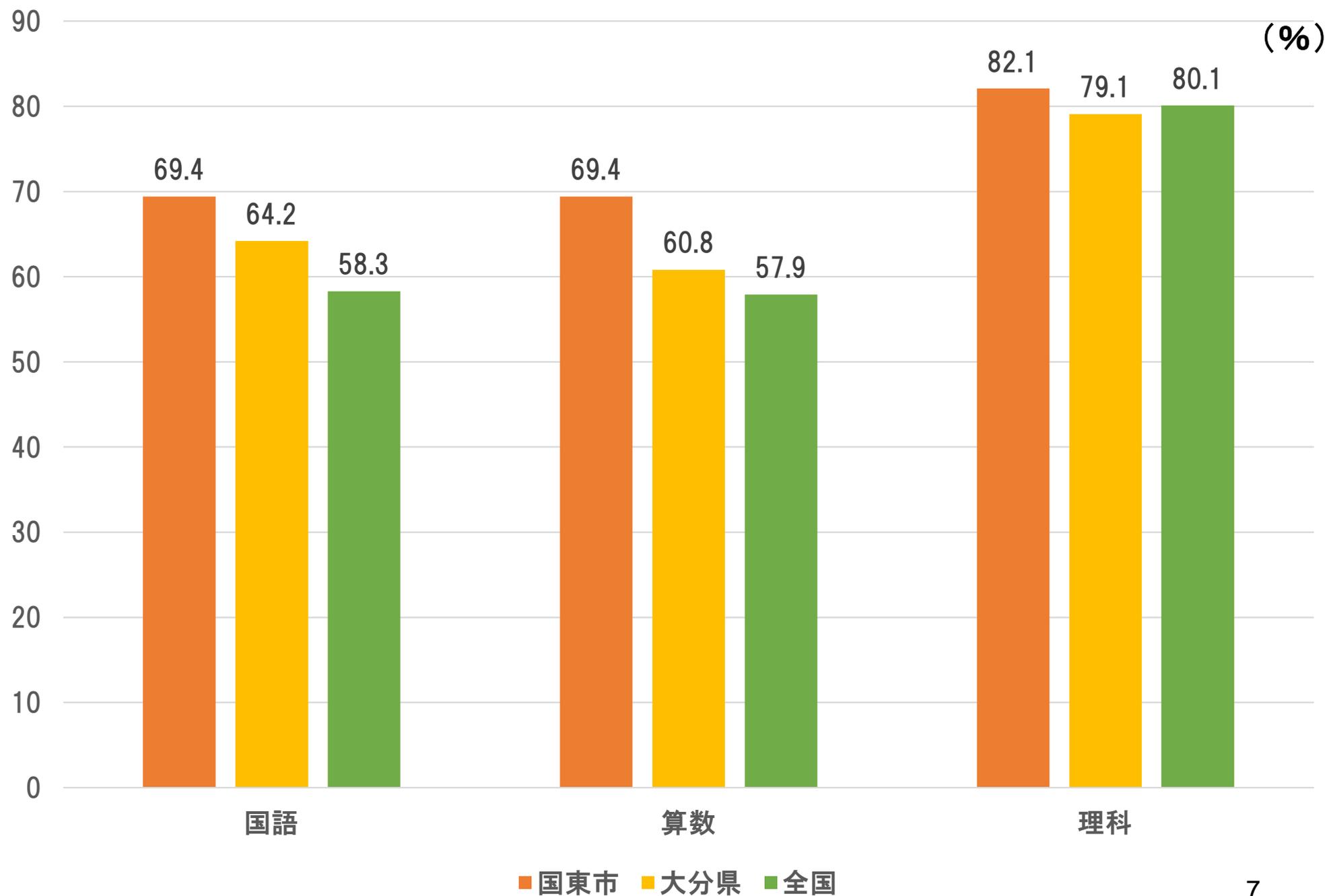
数学



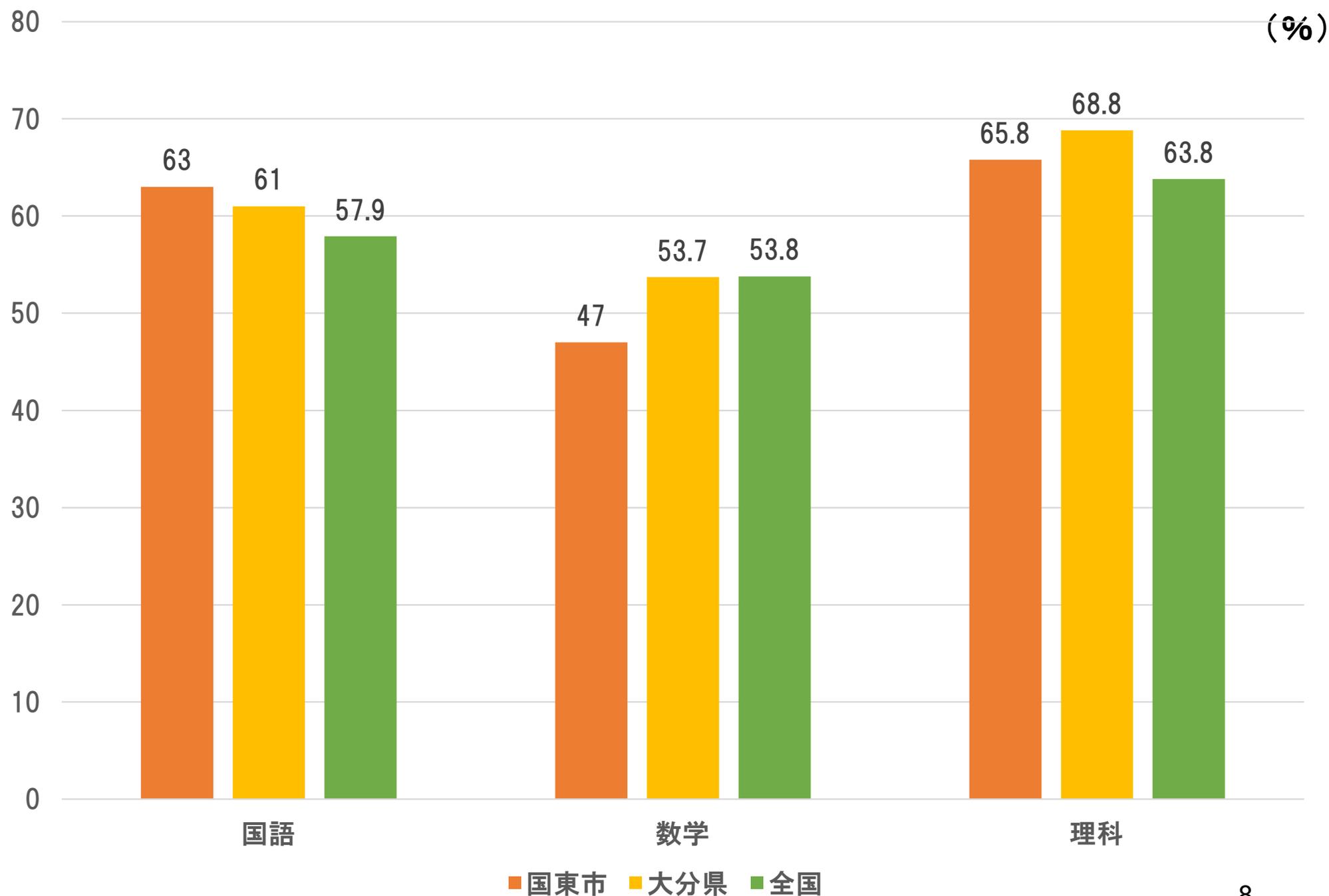
理科



(小学校)「教科等の勉強が好きですか」に対する肯定的な回答の割合

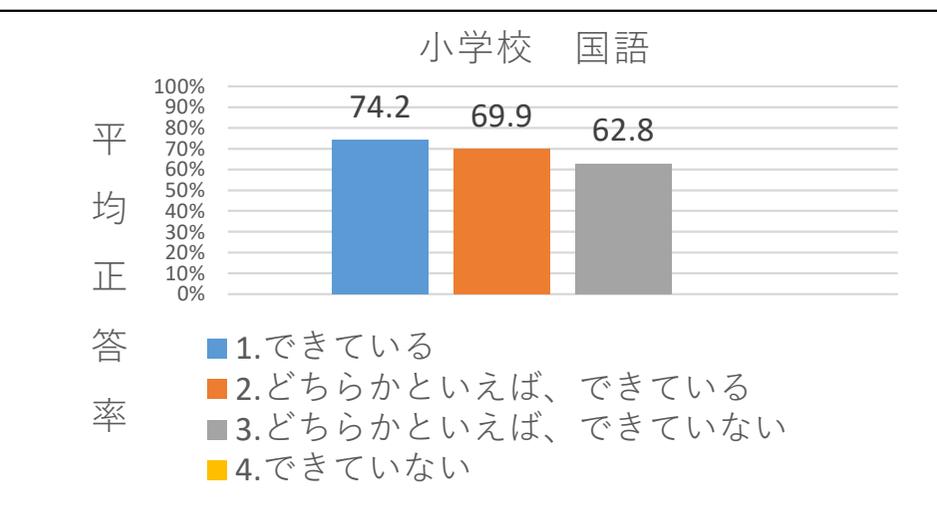


(中学校)「教科等の勉強が好きですか」に対する肯定的な回答の割合

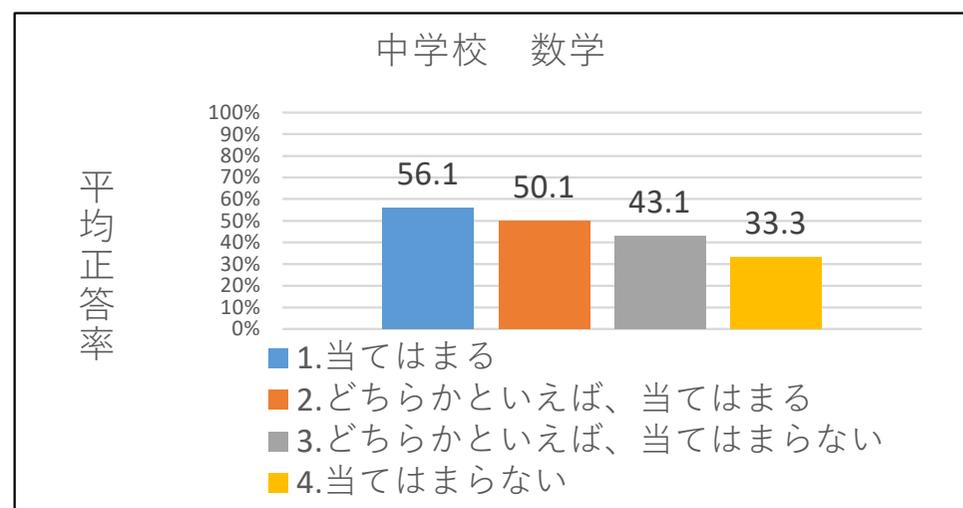
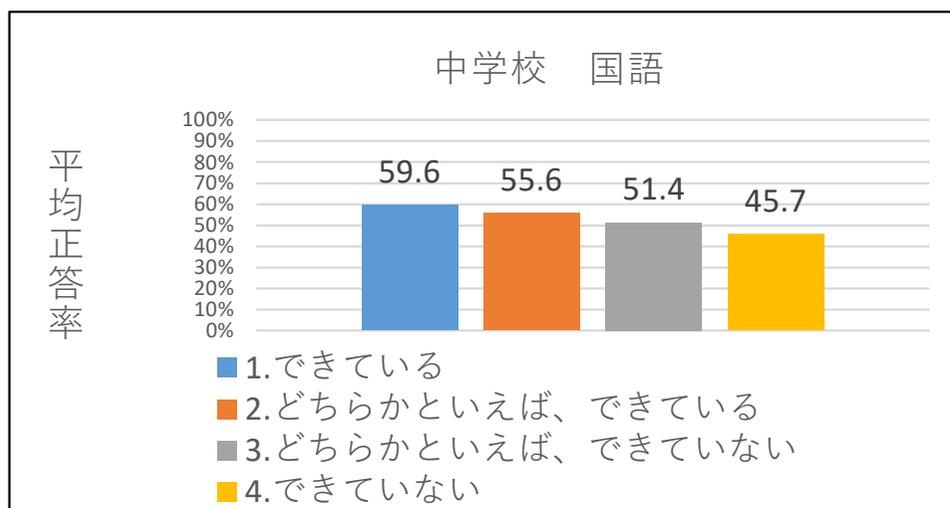
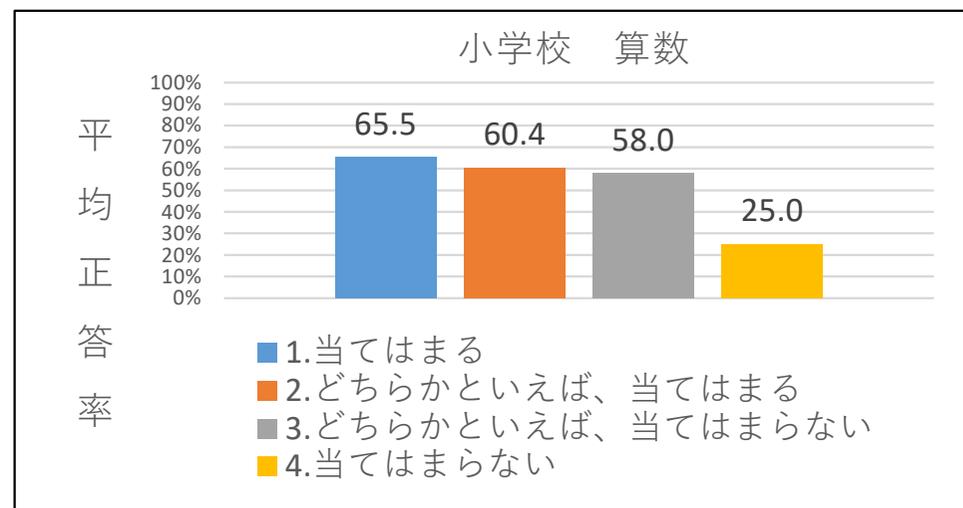


学習調整と正答率のクロス分析

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



小学校・中学校とも、他教科でも同様の傾向

(小学校)ICTを活用した学習

5年生の時までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

ほぼ毎日

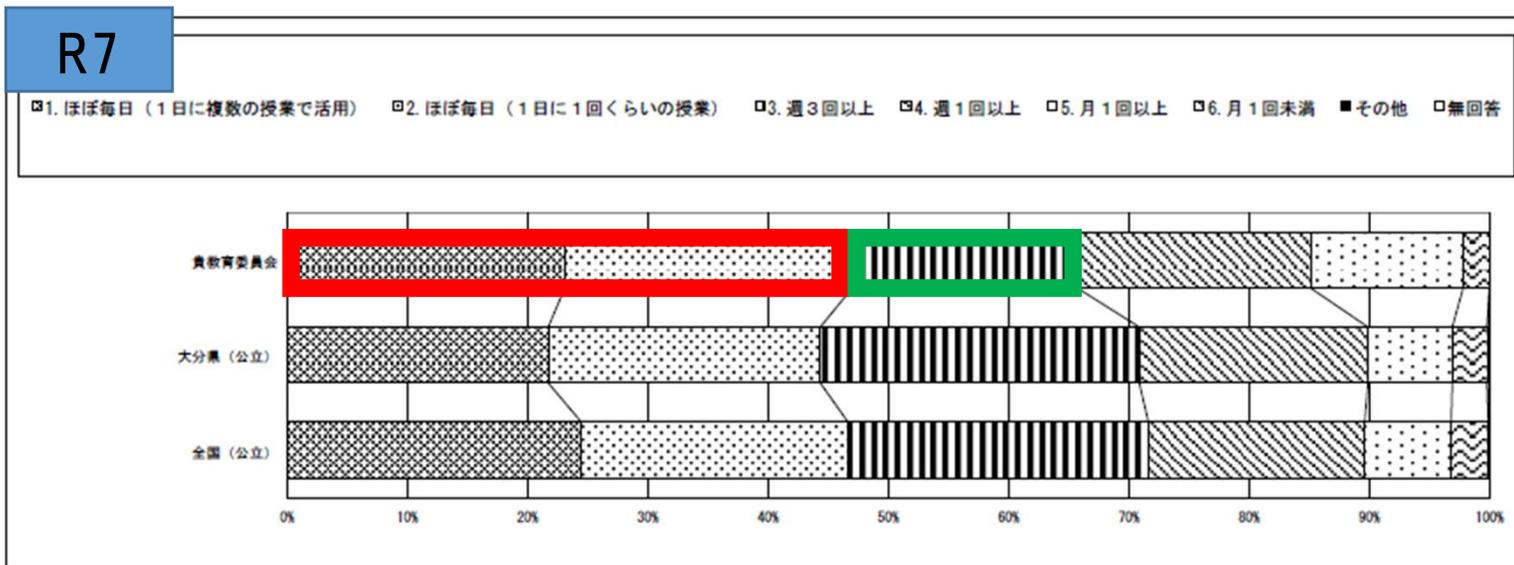
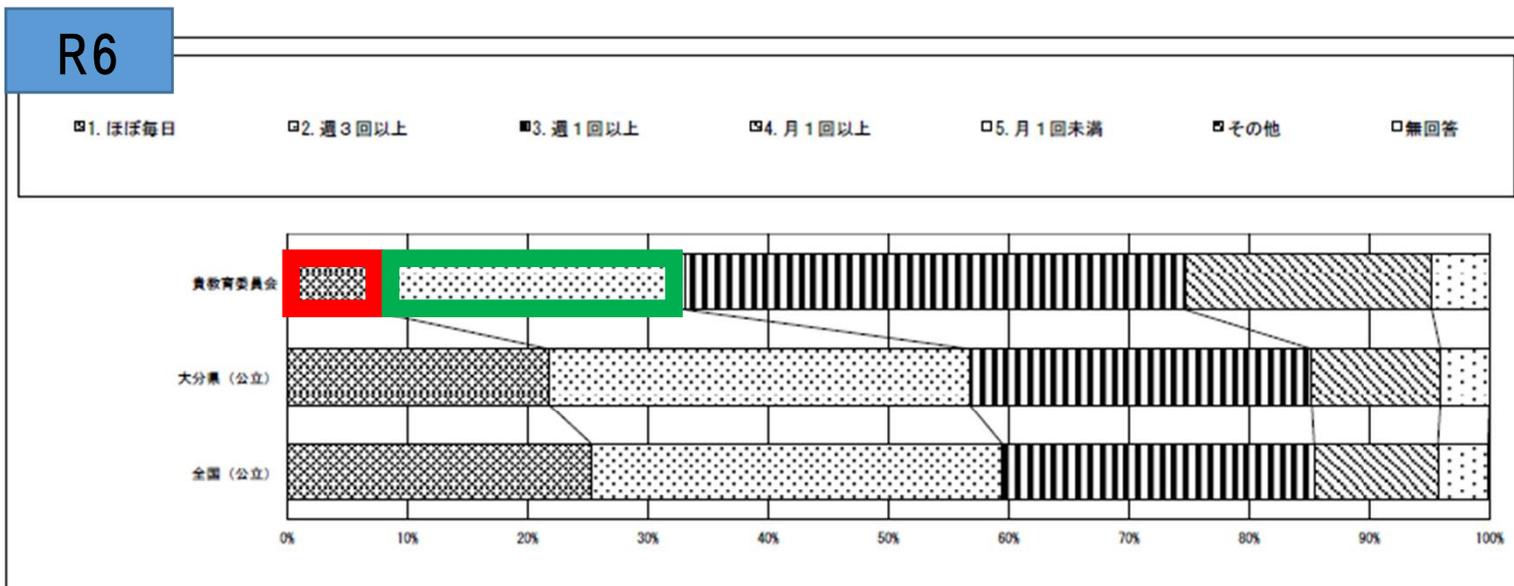
R6 6.6

R7 47.0

ほぼ毎日+
週3回以上

R6 33.1

R7 65.7



(中学校)ICTを活用した学習

1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

ほぼ毎日

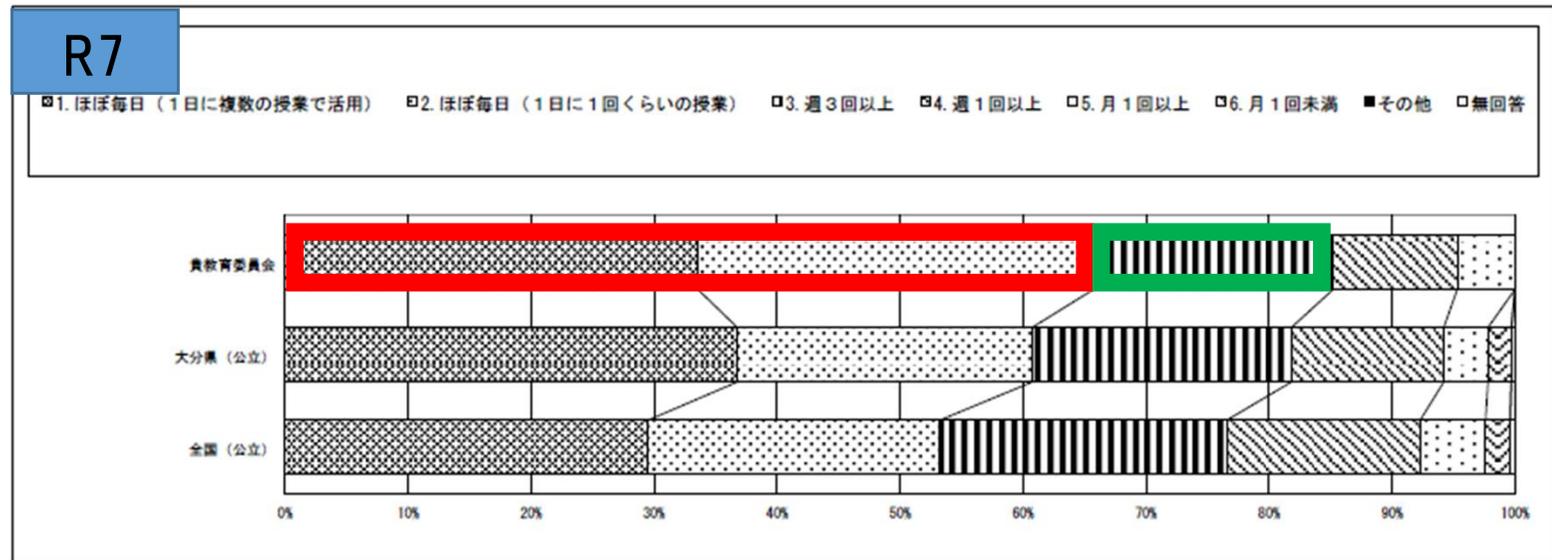
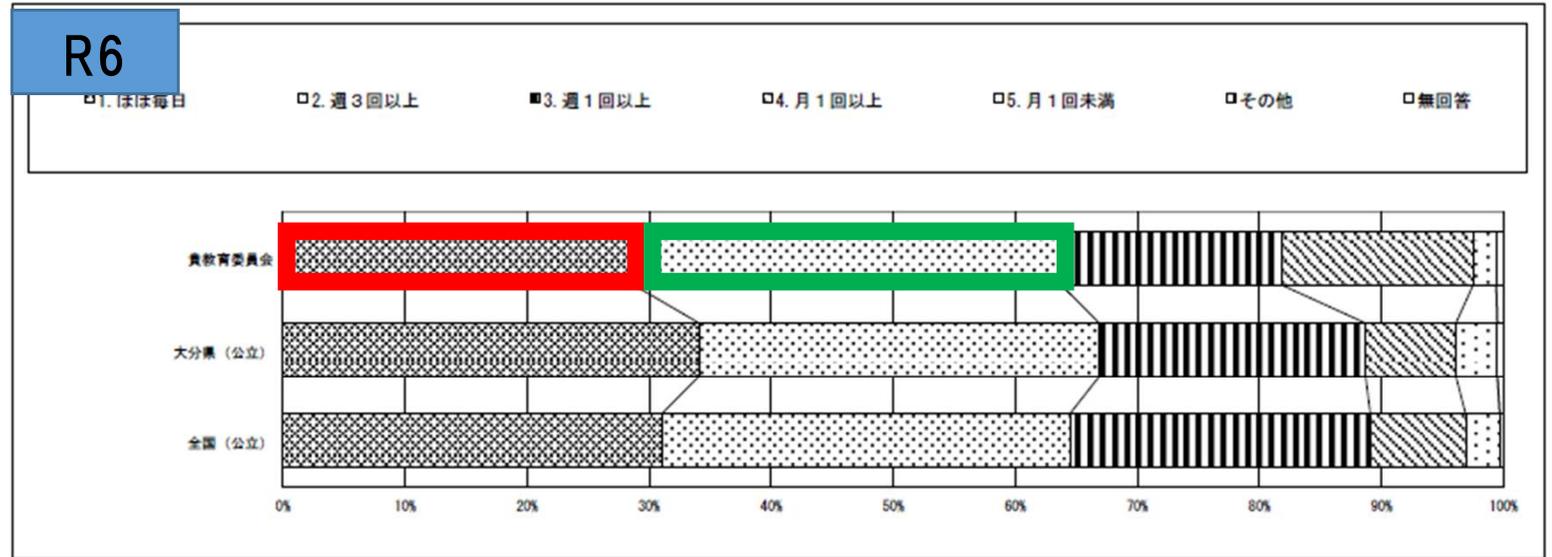
R6 28.8

R7 **65.8**

ほぼ毎日+
週3回以上

R6 63.8

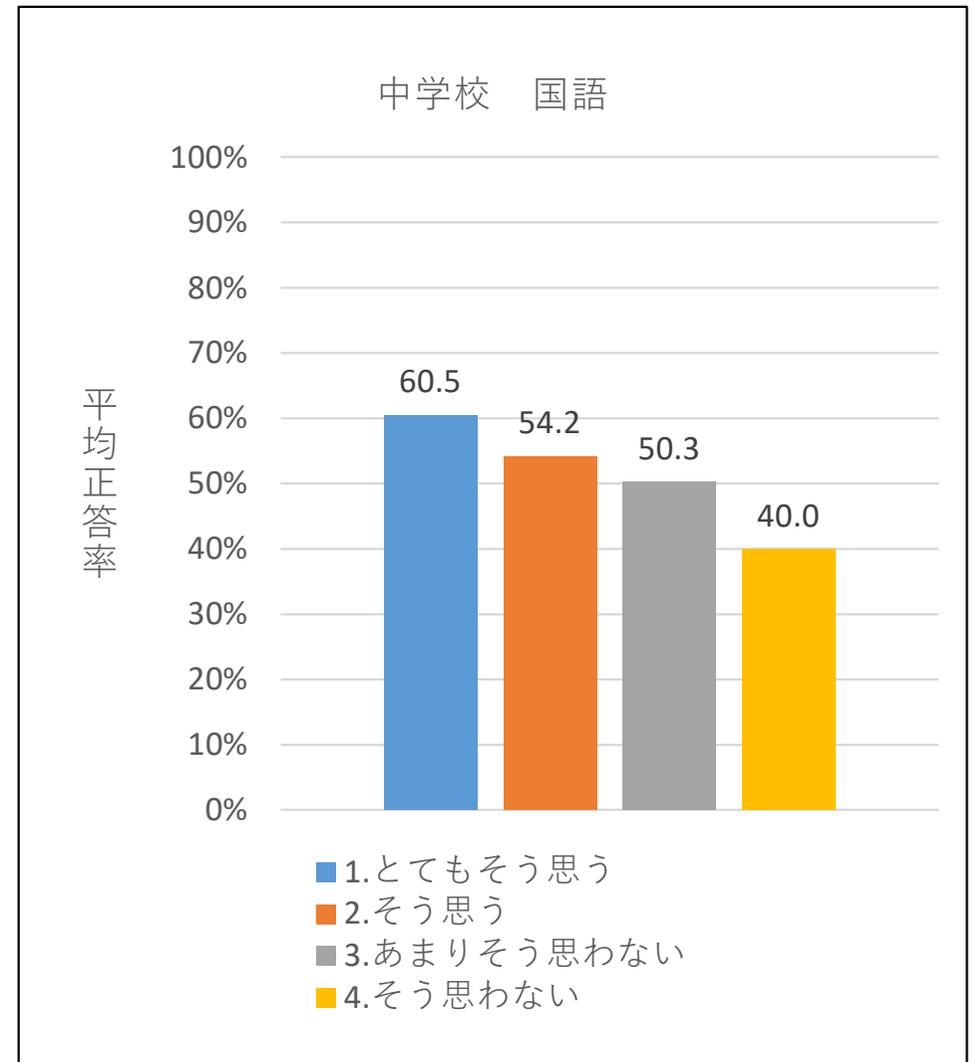
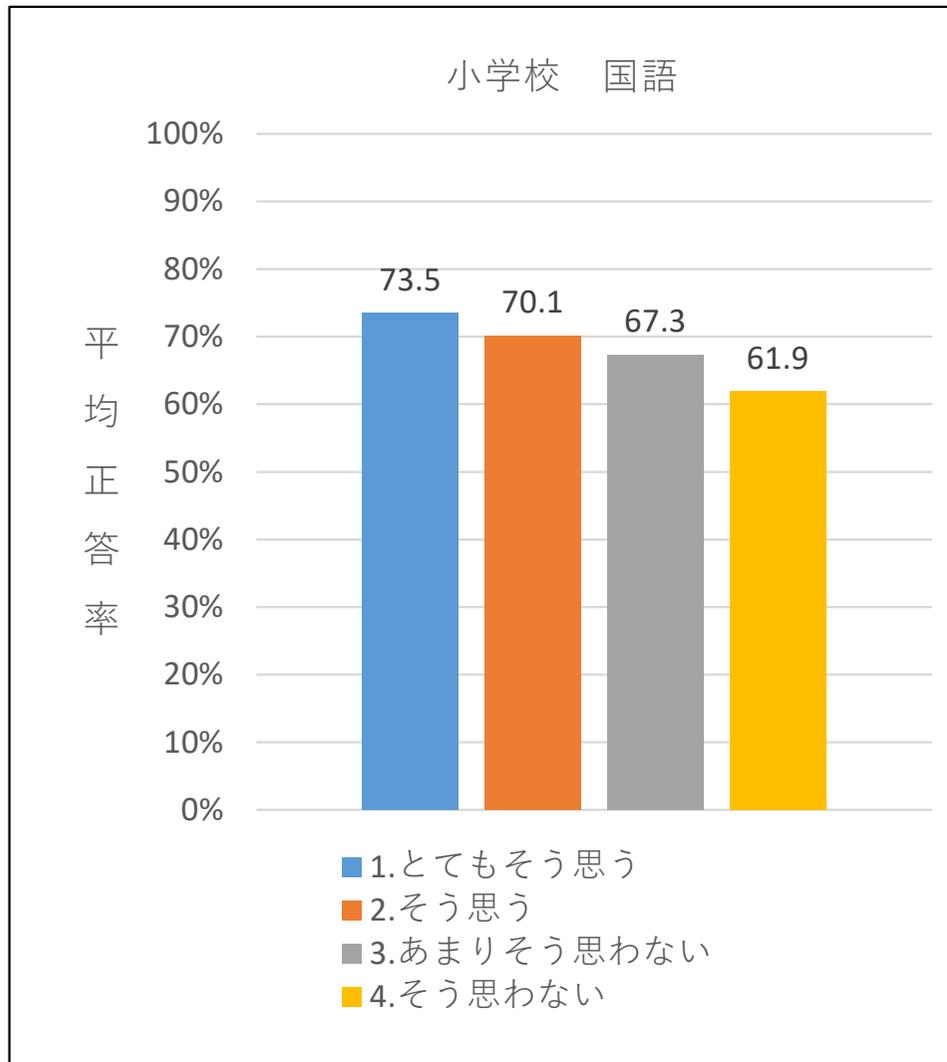
R7 **85.3**



ICTの活用と正答率のクロス分析

(小学校)あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますか

(中学校)あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか



全国学力・学習状況調査の結果から

①各教科の偏差値・正答率の状況

- ・ 小学校，中学校ともにすべての教科で全国・県の平均正答率を上回っている。
(中学校理科はIRTスコア)
- ・ 昨年度と比較すると，すべての教科で全国平均正答率との差は小さくなっている。
- ・ 組織的な授業改善の成果は着実に表れている。
- ・ 小学校5年生においては，特に小学校の令和6年度国東市学力調査との比較において課題が見受けられる。調査結果の分析，改善のための取り組みに加え，その取り組みの結果の見取りまでを含めた「対策」を丁寧に進めていく必要がある。

②正答率3割未満の児童・生徒の割合

- ・ 小・中学校のすべての教科で全国・県の割合よりも低く抑えられている。
- ・ 一方で，正答率3割未満の児童・生徒の出現率が増加している教科もある。
- ・ 授業改善の重点Point 5 「評価規準に達しない（達しそうにない）児童生徒に対する個別の指導」の実践を一層推進していく必要がある。

全国学力・学習状況調査の結果から

③各教科の愛好度

- ・ 小学校はすべての教科で県・全国の値を上回っている。
- ・ 中学校では，国語・理科が全国の値を上回っている。
- ・ 「わかる・できるから楽しい授業」を目指す。
- ・ 「わかる」から「好き」へつなげるために，国東市授業改善の重点のPoint A「児童生徒の解決意欲を促す課題の設定」により，ずれから問いを顕在化し，主体的な学びを生み出していく。

④学習の調整

- ・ 学習の調整を行うことと各教科の正答率には相関関係が見られる
- ・ 振り返りの場面において，学習内容や学習方法について振り返るなど，学習の調整につながる機会を丁寧に取り組んでいく。

全国学力・学習状況調査の結果から

⑤ICTの活用

- ・ ICTの活用頻度は、小学校・中学校共に大きく上昇している。
- ・ 正答率との相関関係は、「ICTを自信をもって使うことができる」「ICTを学びに活用している」等の項目に強く見られる。
- ・ ICTの積極的な活用を進めるとともに、「何のためにICTを使うか」「どのような場面で使うか」「どのように使うか」などの視点からより効果的な活用のあり方を考えていく必要がある。

令和7年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 結果のポイント

- 平均正答率は、全国平均と県平均を上回った。

	国東市	大分県	全国
平均正答率	70.0	69.0	66.8

<観点別正答率>

観点	国東市	大分県	全国
知識・技能	80.6	78.5	74.5
思考・判断・表現	66.4	64.9	63.8

- 「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに平均正答率は全国平均と県平均を上回った。

<領域別正答率>

領域	国東市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	66.2	65.8	66.3
書くこと	70.9	70.6	69.5
読むこと	63.2	59.8	57.5

- 「話すこと・聞くこと」は平均正答率が県平均は上回ったが、全校平均を0.1ポイント下回った。
- 「書くこと」「読むこと」は平均正答率が全国平均と県平均を上回った。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 情報の扱い方に関する事項〔1〕二

- 出題のねらい：情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る。
- 問題の概要：【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する。
- 正答率：国東市 59.4%・大分県 63.4%・全国 63.1%
- 学習指導にあたって
 - 図などによる語句と語句との関係の表し方とは、複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりするなど、図示することによって情報を整理することである。図示などにより、語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解し、様々な学習活動において活用できるようにすることが求められる。
 - 目的や意図に沿って、線や囲みなど図示することによって自分なりに情報を整理できるようにすることが重要である。また、第5学年及び第6学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」の(1)「A目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。」との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。情報の整理の仕方については、様々な方法があり、年間を通じて複数回、意図的に指導することも大切である。

(2) 読むこと〔3〕三(1)

- 出題のねらい：目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。
- 問題の概要：【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する。

□正答率 : 国東市 34.6%・大分県 39.8%・全国 40.8%

□学習指導にあたって

- ・「必要な情報を見付ける」とは、文章の中から、目的に応じて必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることである。実生活において、児童は、図表を含む様々な情報に触れている。その中から、必要な情報を見付けるためには、文章と図表などの情報を合わせて読んだり、複数の資料を関連付けて読んだりすることが大切である。
- ・文章中に用いられている図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしたり、文章と図表などの関係を捉えて読んだりすることで、内容についてより深く理解したり解釈したりすることができるよう指導することが大切である。その際、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることが求められる。

3 指導の改善のポイント

(1) 国語科の授業づくりの流れに沿って単元を構想する。

- ①単元で取り上げる指導事項を明確にする。
- ②資質・能力の育成に適した言語活動を設定する。
- ③資質・能力の定着を確認する適切な評価基準を設定する。
- ④単元の指導と評価の計画を立てる。
- ⑤支援を要する児童に対する手立ての工夫を考える。

①単元で取り上げる指導事項を明確にする

つきたい力を明確にするためには学習指導要領解説の「内容」に書かれていることを確認するとよい。学習指導要領に示された内容は一つの指導事項に複数の指導する内容が含まれているため、それぞれの単元で指導しなかった内容については該当学年の別の単元でもれなく指導する必要がある。その際、マトリクス型年間指導計画を活用するとよい。

②資質・能力の育成に適した言語活動を設定する。

国語科における言語活動とは「話すこと・聞くこと」や「書くこと」「読むこと」に関する基本的な国語の力を定着させるため、言葉によって理解し思考し表現するという過程を経る活動である。言語活動は手立てであり大事なものは「資質・能力」の育成である。指導事項(目標)と言語活動(手立て)を往還させ、付きたい力に最適な言語活動の設定をすることが大切である。身につける言葉の力を想定して指導者がやってみる(モデルを作成してみる)ことで子どもの実態にあっているかを確認したり子どものつまづきを想定したりすることも大切である。

③資質・能力の定着を確認する適切な評価基準を設定する。

単元の評価基準を設定した後、実際の学習活動を踏まえて各時間の「概ね満足できる状況」(Bの児童の姿)を具体的に想定しておく。

④単元の指導と評価の計画を立てる。

各時間の具体的な学習活動及び単元のどの段階でどのような評価基準に基づいて評価するのかを明らかにする。

⑤支援を要する児童に対する手立ての工夫を考える。

質問調査「国語の授業の内容はよく分かりますか」を見ると「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童が11.9%いる。一人ひとりの困りを想定して、支援方法を考えることが大切である。

(2) 系統的な指導を意識する。

これまでに身につけてきた資質・能力を把握した上で、単元で育成を目指す資質・能力を明確にすることが大切である。つまり、前学年の(または前単元の)指導内容を受けて何を新たに身につけさせるのかを明確にして指導することが大切である。

(3) 学習用語を確実に理解させる。

必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。そのために、小学校で使用する教科書に掲載されている学習用語は、その学年で確実に理解させることが大切である。既習の用語は授業で使わせ、指

導者が曖昧な言葉を使わないようにしなければならない。

4 教科を越えて取り組むべきこと

(1) 漢字や語句、文法、表現技法等の習得

漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。また、国語科以外の教科の時間に既習の漢字を使用するように指導することも大切である。

(2) 読書や各教科における学校図書館の活用

- ・様々な力を下支えするものとして活字に親しむことが必要である。特に、SNSを使うことで自分に適した情報が短い言葉で出てくる経験をしている児童が増えていることが考えられることから、学校司書等と連携しバランスのよい読書指導をすることが重要である。
- ・学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を活用することも求められる。質問調査からは新聞を読む頻度が少ない実態が明らかになっている。学校図書館にある新聞の活用を積極的に行ったり、新聞を児童の見えるところに掲示し、自然と情報が入ってくる環境を作ったりしていきたい。

(3) 全国学力・学習状況調査についての研修や情報共有

全国調査の結果分析を各学校の指導の充実に活かすために、学校全体で情報を共有し、授業改善のベクトルを揃えることが重要である。

◆参考資料：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

未来を創る学力向上支援事業に係る未来を創る授業力向上協議会資料（R5・R6年度）

国東市：全国学力・学習状況調査結果分析（小学校：算数）

1. 結果のポイント

- ・正答率は61%で、全国の58%を3ポイント、県の60%を1ポイント上回っている。
- ・領域別では、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」全ての領域で全国・県の正答率を上回っている。特に「測定」では、5ポイント以上全国の正答率を上回っている。
- ・観点別では、「知識・技能」で+4.6ポイント、「思考・判断・表現」で+1.5ポイント、全国の正答率を上回っている。

2. 課題が見られた問題と指導の改善事項（※全国の正答率を下回っていたもの）

(1) 数と計算 3 (2)



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

① 出題のねらいと内容

分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

② 解答状況

・正答 もとにする数は1/12です。3/4は9個分、2/3は8個分です。

正答率 22.7% (全国 23.0%)

・誤答 通分について書いている 通分した加法の答えを書いている 23.5% (全国 26.2%)
 $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分と書いている 4.5% (全国 4.4%)
 無回答 13.6% (全国 15.7%)

③ 指導の改善事項

分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、既習の整数の加法に

帰着できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、異分母分数の加法について、加数と被加数の単位分数に着目し、整数の加法に帰着できるのかを考察する活動が考えられる。同分母分数の加法では、単位分数が見えやすく、そのいくつかとみることで整数の加法として考えることができる。しかし、異分母分数の場合、単位分数が異なるため、そのままでは整数の加法として考えることができないので、そのことに気付かせていくことが大切である。その上で、共通する単位分数が何なのかを考えさせ、そのいくつかになっていることから、整数の加法に帰着できることに気付くことができるようにする。

分数の加法に限らず、小数や大きな数の学習においても、数を相対的にみる力、その際に何をもとにしているのかを考えさせていくことも大切である。

(2) 変化と関係 4 (4)

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。上の4にあてはまる数を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

① 出題のねらいと内容

「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる。

② 解答状況

・正答	2	正答率 33.3%(全国 40.9%)
・誤答	1と解答している	40.9%(全国 37.5%)
	3と解答している	18.2%(全国 14.7%)
	4と解答している	1.5%(全国 2.2%)
	上記以外の解答	1.5%(全国 0.5%)
	無回答	4.5%(全国 4.1%)

③ 指導の改善事項

基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、増量前の量を基準量として、図を使って10%や110%に当たる比較量を表したり、基準量を1として0.1や1.1に当たる比較量を表したりすることで、「10%増量」について「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにして、図と式や言葉を用いて説明し、数量の関係を捉えることができるようにすることが大切である。

また、基準量の「1倍」に当たる量は基準量と変わらないことや基準量の「0.5倍」に当たる量は基準量の半分となることを捉え、基準量と基準量の「1倍」「0.5倍」「0.25倍」「0.75倍」に当たる量との大小比較に基づいて、基準量の小数を用いた倍に当たる量を捉えることができるようにすることが大切である。

【参考・引用】 令和7年度 全国学力・学習状況調査報告書(文部科学省・国立教育政策研究所)

令和7年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（小学校：理科）

◇教科全体の結果（正答率）

	国東市	大分県	全国
教科全体	64	60	57.1

・教科全体では正答率が全国平均を 6.9 ポイント上回った。

◇領域別の結果（正答率）

学習指導要領の内容	国東市	大分県	全国
エネルギーを柱とする領域	57.0	51.8	46.7
粒子を柱とする領域	54.8	52.7	51.4
生命を柱とする良識	61.3	55.1	52.0
地球を柱とする領域	71.8	69.2	66.7

・すべての領域で全国平均を上回った。

◇観点別の結果（正答率）

観 点	国東市	大分県	全国
知識・技能	63.7	59.0	55.3
思考・判断・表現	63.7	60.7	58.7

・すべての観点で全国平均を上回った。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 正答率が全国平均よりも低かった問題

4 (2) イウ

(出題のねらい) 水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる

正答率：国東市62.4 全校64.2

- ・誤答の傾向として、湯気が水蒸気に状態変化することは理解できているが、水は加熱しないと水蒸気にならないと誤解していると考えられるものが多く見られた。
- ・指導に当たっては、深い理解のために、加熱をしなくても水が蒸発する場面を想起したり、低い温度で水が蒸発する場面と沸騰で蒸発する場面との差異点や共通点を整理したりすることを通して、水の状態変化について理解していくような指導が考えられる。

4 (3) カ

(出題のねらい) 水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる。

正答率：国東市 57.1% 全国 59.8%

- ・誤答の傾向として、氷の量と気温上昇とを関連付けることができていると考えられるものが多くみられた。
- ・指導に当たっては、学習のまとめの際に、学習したことを自然の事象や生活の場面に当てはめて理解を深める活動を設定する。その際に共通点を分類・整理したり、自然の事象と習得した知識を関連付けて説明したりするような学習活動が考えられる。

(2) 無回答の割合が他に比べると高かった問題

3 (4)

(出題のねらい) レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかをみる。

無回答率：国東市 7.5% 全国 11.4%

- ・無回答の原因として、レタスの種子の発芽の条件について、既習の植物の発芽の条件との差異点や共通点を基に、どの条件を変えるべきなのかを考えることができていないということが考えられる。
- ・指導にあたっては、差異点や共通点を基に、条件に着目した問題を見いだす場面を設定することが考えられる。例えば、「発芽するために必要な養分はどこからくるのだろうか」という問題を見いだし、インゲンマメの種子が発芽した後の様子を観察する。発芽する前と後のインゲンマメの種子にヨウ素液をつけ、でんぷん反応を確認し、発芽した後の種子からはでんぷん反応がないことから、「インゲンマメが成長するためには、肥料や日光が必要なのだろうか」という問題を見いだすことが考えられる。

3 指導の改善のポイント

(1) 実際の事物・現象と児童を体感的に出合わせ、児童から生まれる疑問を解決していく授業づくり

児童が十分に事象と関わる時間を作り、課題意識を生み出すことができるようにする。また、視覚だけでなく、五感を使って関わらせることが大切である。観察や実験などの学習の中で事象との関わりを確保できるよう時間や学習の場を確保するようにする。

(2) 領域ごとの「理科の見方・考え方」を意識した活動の設定

①粒子

学習では自然の事物・現象を質的・実体的な視点で捉えさせる。物の形や体積、目に見えなくても物体が存在することなどを学習し、学習内容を生活や他の事物・現象に当てはめて捉えなおすことができると良い。また、児童が予想に対して適切な検証ができるよう、実験計画の妥当性を事前に検討し、必要に応じて改善することが大切である。具体的には「解決の方法を発想する場面」、「実験を行い、その結果や方法を振り返る場面」、「問題に対するまとめを導き出す場面」が考えられる。

②エネルギー

観察や実験で得られた事実を、図や言葉を用いて表現する活動を通して、児童の理解を深めていくことが重要である。たとえば、電磁石の強さの変化を捉える際に、「導線の巻数」「電流の大きさ」などの条件と言葉を的確に使い分けながら現象を説明する力を育成する必要がある。また、装置と「言語・図による表現」との往還的な学習も有効である。児童が装置を製作した後にその構造や働きを図で表現したり、図や説明文をもとに装置を再構成したりするなどの活動を通して、知識の定着と応用力の向上が期待できる。

③生命

児童が観察結果を科学的な用語を用いて表現する力を育てることが必要である。例えば、植物のつくりの観察においては、「おしべ」「めしべ」などの用語を正確に使用し、図鑑等の資料と照合しながら構造を説明できるようにする指導が求められる。

児童が自然の現象の中から問題を見いだす力を育てるためには、複数の事象を比較し、その差異点や共通点に注目する活動を充実させることが重要である。例として、種子の発芽前後での養分の変化を実験によって調べ、そこから「成長にはどのような条件が必要か」といった新たな問いを

自ら立てるような学習活動が挙げられる。

④地球

児童自らが条件を制御した実験方法を考案し、計画・実施する力の育成が求められる。そのためには、予想や仮説に基づき、変える条件と変えない条件を明確に区別しながら実験計画を立てる学習活動を充実させる必要がある。十分な話し合いの時間を設け、児童の主体的な計画立案を支援することが重要である。また、観察・実験の結果をもとに、児童が自らの考えを論理的に表現できるようにするためには、データを表やグラフに整理し、それを根拠として多面的に考察する活動が効果的である。こうした過程を通じて、児童の科学的な思考力および表現力の向上が期待される。

以上のように、各分野において共通して求められるのは、「予想・観察・実験・表現」といった科学的な探究のプロセスを児童が主体的に繰り返し体験し、その中で自ら考えを深めていくことができる学習環境の構築である。今後の理科学習指導においては、これらの視点を踏まえた授業設計と、継続的な振り返りと改善が重要である。

【参考・引用】 令和7年度 全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省・国立教育政策研究所）

令和7年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 結果のポイント

・全体結果

対象生徒数	平均正答率 (%)
国東市 (144 人)	55
大分県 (公立 8,552 人)	53
全国 (公立 870,560 人)	54.3

・分類別結果

分類		区分	平均正答率 (%)		
			国東市	大分県	全国
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	42.7	46.5	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項	-	-	-
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	-	-	-
	思考力 判断力 表現力等	A 話すこと・聞くこと	55.7	52.1	53.2
		B 書くこと	54.7	52.7	52.8
		C 読むこと	62.3	61.1	62.3
評価の観点		知識・技能	42.7	46.5	48.1
		思考・判断・表現	56.9	54.6	55.3
		主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式		選択式	63.4	62.6	63.9
		短答式	74.3	74.1	73.6
		記述式	28.3	24.7	25.3

- ・平均正答率での全国平均との比較では差が+0.7ポイントで、全国平均を上回った。
- ・内容別での全国平均との差は「言葉の特徴や使い方に関する事項」で-5.4ポイント、「話すこと・聞くこと」で+2.5ポイント、「書くこと」で+1.9ポイント、「読むこと」で±0ポイントであった。
- ・観点別では、「知識・技能」は全国平均を下回ったが「思考・判断・表現」は全国平均を上回った。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

1 案内文を書く（美術展のちらし）

設問一

①趣旨

文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第2学年〕知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。《漢字》

②解答類型と解答率

1 一	生徒数の割合	
	国東市	全国
問題の概要		
変換した漢字として適切なものを選択する (かいしん)		
◎1 と解答しているもの	27.8	35.2
2 と解答しているもの	33.3	31.9
3 と解答しているもの	38.9	32.7
4 上記以外の解答	0.0	0.0
5 無解答	0.0	0.2

◎は正解

◆分析と課題

- 解答類型2、3の解答率の合計は72.2%である。このように解答した生徒は、文脈に即して漢字を正しく使うことに課題がある。

解答類型2、3の生徒は、「どれもかいしんの出来です。」の「かいしん」について、文脈から意味を捉えることができなかつたものと考えられる。または、意味を捉えることはできたものの、「会心」、「改心」、「改新」のいずれを使うのが正しいかを判断して選ぶことができなかつたものとも考えられる。

③学習指導に当たって

文脈に即して意味に注意しながら漢字を正しく使う

漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を正しく使うように指導することが大切である。漢字の書きについては、小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れるよう指導することが求められている。その際には、各学年の語彙の指導事項の内容と関連付け、音訓を意識し、同音異義語などの意味の違いに注意するなどして、漢字を正しく使うことができるよう指導することが大切である。

1人1台端末等を活用して文字を入力する活動を行う場合には、漢字がもつ意味に注意して、適切に選択することができるよう、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことに留意することが必要である。その際、日本語入力システムの変換候補にある漢字の意味の違いを確認したり、必要に応じて辞書を引いたりすることを習慣付けるようにすることが大切である。

なお、漢字の読みについては、学習指導要領の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字に加え、中学校修了までに学年別漢字配当表以外の常用漢字の大体を読むことを求めている。

設問二

①趣旨

目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。《題材の設定、情報の収集、内容の検討》

②解答類型と解答率

1 二	生徒数の割合	
	国東市	全国
問題の概要		
ちらしに「会場図」を加えた目的を説明しているものとして適切なものを選択する		
1 と解答しているもの	4.2	3.6
2 と解答しているもの	2.8	1.9
3 と解答しているもの	13.9	11.8
◎4 と解答しているもの	79.2	82.5
5 上記以外の解答	0.0	0.0
6 無解答	0.0	0.2

◎は正解

◆分析と課題

○ 解答類型1～3の解答率の合計は20.9%である。このように解答した生徒は、目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることに課題がある。

解答類型3の生徒は、【ちらし】が地域の小学校6年生の来場を促すためのものであることは踏まえているが、「会場図」の内容を捉えることができず、読み手が、会場となる体育館まで迷わずに来ることができるように、「会場図」を加えていると誤って捉えたものと考えられる。

③学習指導に当たって

相手や目的に応じて、必要な情報を取捨選択する

案内文など実用的な文章を書く際には、相手や目的に応じて材料を比較しながら、伝えるべき事柄を取捨選択するなど、集めた材料を整理して簡潔に分かりやすく書く必要がある。

例えば、同じ行事を案内するウェブページとちらしについて、盛り込む内容を検討する学習活動が考えられる。その際、ウェブページとちらしを比較しながら、それぞれが想定する相手や目的などを具体的に考え、必要な情報を取捨選択することが大切である。

3 文学的な文章を読む（「二人の兄弟」）

設問三

①趣旨

事象や行為を表す語句について理解しているかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第1学年〕知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

《語彙》

②解答類型と解答率

3 三	問題の概要	生徒数の割合	
		国東市	全国
	「しきりと」の意味として適切なものを選択する		
1	と解答しているもの	2.1	3.7
2	と解答しているもの	6.3	8.7
◎3	と解答しているもの	57.6	61.0
4	と解答しているもの	33.3	25.7
5	上記以外の解答	0.0	0.0
6	無解答	0.7	0.8

◎は正解

◆分析と課題

○ 解答類型1、2、4の解答率の合計は41.7%である。このように解答した生徒は、「しきりと」という語句の意味の理解に課題がある。

解答類型4の生徒は、「気長な」兄が「木の下を探し廻る」姿を、注意深い様子であると想像し、「しきりと」の意味を「注意深く」と誤って捉えたものと考えられる。

③学習指導に当たって

事象や行為、心情を表す語句について理解する

事象や行為、心情を表す語句について理解するためには、動詞や形容詞、形容動詞、名詞、副詞など様々な語句について取り上げ、語句の量を増すとともに、話や文章の中でどのように使用されているかについて考えることが重要である。

例えば、本などから見付けた事象や行為、心情を表す語句を取り上げ、辞書的な意味を踏まえて、文脈上の意味を考える学習活動が考えられる。その際、他の語句と比較しながらその語句が文章の中で果たしている役割を考えるなどして、語句の意味や使い方について理解を深めることが大切である。

【参考・引用】 令和7年度 全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省・国立教育政策研究所）

国東市：全国学力・学習状況調査結果分析（中学校：数学）

1. 結果のポイント

- ・正答率は49%で、全国の48.3%を0.7ポイント、県の45%を4ポイント上回っている。
- ・領域別では、「数と式」「関数」の領域で全国・県の正答率を上回っている。「図形」「データの活用」においては県を上回ったものの、全国の値については下回った。
- ・観点別では、「知識・技能」で0.8ポイント、全国の正答率を上回っている。「思考・判断・表現」では全国の正答率を0.2ポイント下回った。

2. 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 図形 9 (1) 四角形 AECF が平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ。

① 出題のねらいと内容

証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる。

② 解答状況

- 正答率 48.6% (全国 58.5%)
- 無解答率 0%

③ 指導の改善事項

○ 証明を振り返り、新たに分かる辺や角の関係を見いだすことができるようにする

予想した事柄が成り立つことを証明した後、問題で与えられた条件や証明を改めて振り返る場面を設定し、新たに分かる関係を見いだすことができるように指導することが大切である。

例えば、四角形AECFが平行四辺形であることから、新たに分かる辺の関係として、 $AE \parallel FC$ 、 $AE = FC$ を見いだす活動を取り入れることが考えられる。具体的には、四角形AECFが平行四辺形になることを証明した後、仮定や仮定から分かる辺の関係を図や証明から見いだして整理し、四角形AECFが平行四辺形であることから新たに分かる辺の関係を見いだすことができるようにすることが大切である。

なお、角についても同様に考え、新たに分かる角の関係を見いだす活動を取り入れることも考えられる。

9 右の図1のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DA上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。
このとき、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

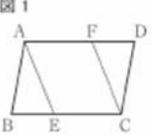


図1

証明1

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AD \parallel BC$
 よって、 $AF \parallel EC$ ……①
 平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AD = BC$ ……②
 仮定より、
 $DF = BE$ ……③
 ②、③より、
 $AD - DF = BC - BE$ ……④
 ④より、
 $AF = EC$ ……⑤
 ①、⑤より、
 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
 四角形AECFは平行四辺形である。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 証明1では、四角形AECFが平行四辺形であることを証明しました。四角形AECFが平行四辺形であることから、新たにわかることがあります。それを下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア $BE = DF$	イ $AF = EC$
ウ $AE = FC$	エ $AB = DC$

(2) 関数 ⑧ (2) A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する。

⑧ A駅の近くに住んでいる歩夢さんは、C駅とD駅の間にあるスタジアムによく行きます。



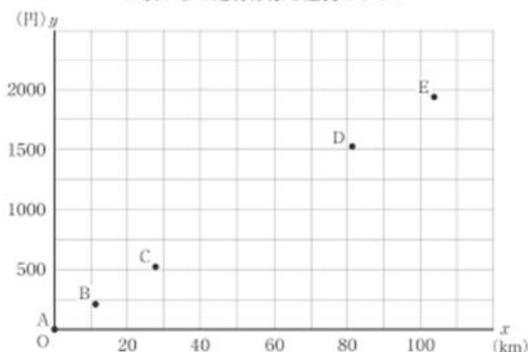
歩夢さんは、スタジアムの近くに新しい駅をつくる計画があることを知り、A駅から新しい駅までの運賃がいくらになるのか気になりました。そこで、A駅からの走行距離と運賃をインターネットで調べ、次のような表にまとめました。

調べた結果

	A駅	B駅	C駅	D駅	E駅
A駅からの走行距離(km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A駅からの運賃(円)	0	210	510	1520	1930

歩夢さんは、上の調べた結果を見て、A駅からの走行距離と運賃にはどのような関係があるかわかりにくく感じました。そこで、調べた結果をもとに、A駅からの走行距離を x km、A駅からの運賃を y 円とし、コンピュータを使って下のようなグラフに表しました。このグラフの点Aから点Eまでの各点の x 座標と y 座標は、それぞれA駅からE駅までの各駅のA駅からの走行距離と運賃を表しています。

A駅からの走行距離と運賃のグラフ



次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 歩夢さんは、前ページのA駅からの走行距離と運賃のグラフを見て、C駅とD駅の間にあるスタジアムまでの走行距離は、他の駅と駅の間と比べて長いと思いました。

C駅とD駅の間にあるスタジアムまでの走行距離は、A駅からの走行距離と運賃のグラフの何を読み取ればわかりますか。下のAからEまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 点Dの x 座標と原点の x 座標の差
- イ 点Dの x 座標と点Cの x 座標の差
- ウ 点Dの y 座標と原点の y 座標の差
- エ 点Dの y 座標と点Cの y 座標の差

(2) 歩夢さんがさらに調べると、新しい駅はA駅から60.0kmの地点につくられることがわかりました。そこで、A駅から新しい駅までの運賃がおよそ何円になるかを予測することにしました。

A駅から新しい駅までの運賃を予測するために、前ページのA駅からの走行距離と運賃のグラフにおいて、原点にある点Aから点Eまでの点が一直線上にあるとして考えることにしました。

このとき、A駅から新しい駅までの運賃はおよそ何円になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に運賃がおよそ何円になるかを求める必要はありません。

① 出題の趣旨

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法数学的に説明することができるかどうかをみる

② 解答状況

- 正答率 37.5% (全国 38.0%)
- 無解答率 35.4% (全国 35.0%)

③ 指導の改善事項

- 問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする

様々な問題を数学を用いて解決できるようにするために、問題解決の見通しを立てる場面や、問題解決の過程や結果を振り返る場面において、数学を活用する方法を考え、説明できるように指導することが大切である。

本設問を使って授業を行う際には、原点にある点Aから点Eまでのすべての点がほぼ一直線上に並んでいることから、二つの数量の関係を比例と仮定して考えられるようにすることが大切である。その上で、A駅から新しい駅までの運賃がおよそ何円になるかを求める方法について、表、式、グラフをどのように用いればよいかを説明する活動を取り入れることが考えられる。このとき、例えば、次のような説明ができるようにすることが大切である。

<表を用いる場合>

表の数値を用いて比例定数を調べ、その比例定数でA駅からの走行距離が60.0kmになるときの

運賃を計算する。

<式を用いる場合>

対応する x と y の値をもとに、 x と y の関係を比例の式で表し、その式に $x = 60$ を代入し、 y の値を求める。

<グラフを用いる場合>

点Aから点Eをもとに、直線のグラフをかき、 x 座標が60のときの y 座標を読む。

このような説明ができるようにするためには、問題解決の見通しを立てる場面において自分の考えた解決の方法を表現したり、問題解決を振り返る場面においてどのような方法で解決したのかをまとめたりすることが大切である。その際、表現が不十分な説明を取り上げるなどして、より洗練された表現に高めていく活動を取り入れることが考えられる。

【参考・引用】 令和7年度全国学力・学習状況調査報告書(文部科学省・国立教育政策研究所)

令和7年度 国東市:全国学力・学習状況調査結果(中学校理科)

1 結果のポイント

- IRT スコアの全国の値との比較では 17 ポイント、県の値との比較では、19 ポイント上回っている。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 正答率が全国平均よりも低かった問題①

1 (1)

(出題の趣旨) 電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる。

正答率：国東市 45.1 全国 51.9

理科の実験で使用する水について考える

理科の実験で使用する水は精製水です。精製水について、誤ったことを免責しましょう。

精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりすることによってつくった水です。

精製水は、右図のように水道水に電熱線を入れて水を加熱し、蒸留する方法でつくられることが多いです。

電気エネルギーを利用して水を加熱しているんですね。水は温まりにくいから、効率よく温める工夫が必要ですね。

より速く水を温めるには、電熱線をどのようにつなげたらよいでしょうか、右の装置で考えてみましょう。

同じ電圧を加えたとき、回路全体の抵抗がどうなるかを考えれば分かりそうです。

装置1

装置2

10 10の電熱線

50 50の電熱線

(1)

回路全体の抵抗が大きいのは装置1、装置2のどちらか、1つ選びなさい。また、正確値について、同じ電圧を加えて、より速く水を温めることができるのは装置1、装置2のどちらか、1つ選びなさい。

回路全体の抵抗が大きい 速く水が温まる装置

○誤答の傾向

直列回路と並列回路とでは回路全体の抵抗が大きくなるのは並列回路であると誤って捉えていると考えられるものが多くみられた。並列回路の回路全体に流れる電流の量が小さくなり、発生する熱量が小さいと捉えている生徒がいると考えられる。

○指導の改善に向けて

・電圧・電流・抵抗と発生する熱量との関係を関連付けて捉えることができるようにする。

電圧・電流・抵抗と発生する熱量との関係について、授業で行われる観察、実験等と関連付けて捉えることが大切である。

指導に当たっては、回路全体の抵抗の求め方や熱量の求め方を習得することのみを目的とするのではなく、これまで授業で行われた観察、実験を想起したり、これまで学習した知識を活用したりして、発生する熱量と直列回路・並列回路における合成抵抗とを関連付けて概念的な理解を深める学習場面を設定することが考えられる。

その際、本設問のように、電熱線で水道水を温めて蒸留し、精製水を製造しているなど、身近な生活と関連をもたせながら、生徒の興味・関心を向上させることが大切である。

(2) 正答率が全国平均よりも低かった問題②

1 (3)

(出題の趣旨) 露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる。

正答率：国東市 28.2 全国 36.2

水通水のことになさきについて調べよ

水道水はどのような水を利用していますか？

水道水は河川の水、雨水などがろ過を通過してしみ出した水を判別しています。

雨水などが地層を通過してしみ出した水を調べてみたいですね。

この地域に露頭から水がしみ出ているところがあります。調べに行きましょう。

地層の横断から水がしみ出しているか

地層の性質と関係があるのかな。それぞれの地層を観察してみよう。

地層の仕組みと同じように考えるとよいですね。

1 2 3 4

地層 1 大きな粒で構成され、粒と粒の間にすき間があるので、水は通り抜ける。

地層 2

地層 3

地層 4

(3) 下層部の水がしみ出る位置として最も適切なものを、右の [] の中から1つ選びなさい。

① 最大1経選択できます

【地層の横断から水のしみ出ている箇所】

○誤答の傾向

すき間が観察されなかった地層3における粒の大きさと水の染み込み方を正しく解釈することと、地層3の観察結果と水が染み出す位置を適切に関連付けて捉えることができていないと考えられるものが多くみられた。

○指導の改善に向けて

- ・ 小学校で学習した知識を基に、地層を構成する粒の大きさと水のしみこみ方を関連付けて説明することができるようにする。

地層を構成する粒の大きさと水のしみ込み方を関連付けて説明することが大切である。

指導に当たっては、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈する学習場面を設定することが考えられる。また、粒の大きさの異なる地層モデルを用いた実験を通して見いだしたことと、実際の地層とを関係付けて解釈することが重要である。

その際には、小学校でどのような内容を学習したかを授業者が丁寧に把握して、授業を通して生徒にフィードバックし、生徒の既習事項等を確認した上で授業をデザインすることが大切である。

【参考・引用】

令和7年度全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省・国立教育政策研究所）